

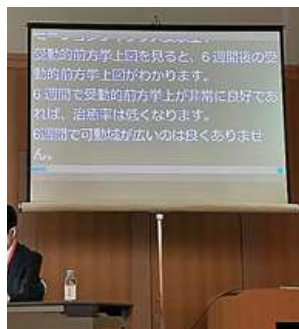
第 97 回日本整形外科学会学術総会 山梨大学医学部附属病院リハビリテーション科 谷口直史

第 97 回日本整形外科学会学術総会が 2024 年 5 月 23 日 (木) ~26 日 (日) に福岡国際会議場・マリメッセ福岡で、慶應義塾大学医学部整形外科学教室教授松本守雄先生を会長として開催されました。7,700 名を超える参加者があり、盛会裏に閉会いたしました。本学術総会のテーマとして「未来を創る—人生 100 年時代の整形外科—」が掲げられ、まさに整形外科医の将来の方向性を示す学術総会となりました。

AI、ロボットなどの新規医療技術をテーマとしたシンポジウムでは、これらが人間の能力をはるかに超えた処理力や精度で臨床に用いられていることが示されました。また、ロコモティブシンドローム・フレイルなどのシンポジウムでは、超高齢社会である本邦における予防医療としてリハビリテーション医療が重要であることを再認識いたしました。

海外演者による招待講演などでは翻訳者による同時通訳の代わりに、AI 自動翻訳が導入されていました。演者の発する言葉が瞬時に日本語でスクリーンに表示される仕組みです。翻訳の精度はこれから期待されますが、AI が用いられる機会が増えていることを実感いた

大会長の松本守雄先生



AI による自動翻訳

ました。

COVID-19 で中止されていた親善スポーツ大会 (野球・サッカー) が復活したり、学会場に豚骨ラーメン (一幸舎) などの屋台が出店されたりと、COVID-19 を克服しつつある世相を感じることができる学術総会でした。

第 65 回日本神経学会学術大会 広報委員会

第 65 回日本神経学会学術大会が、2024 年 5 月 29 日 (水) ~6 月 1 日 (土) に東京国際フォーラムで開催され、同時にアジア・オセアニア神経学会議 (AOCN2024) も合同開催されました。そのため今回のテーマは「アジアのハブとなる神経学」で、国際色が豊かな学術大会でした。現地参加が 6,500 人、web 視聴を合せると 9,500 人が参加したそうです。

脳神経内科は頭痛・めまい・しびれ・ふらつき・物忘れなどの日常よくある症状の初期診療を行い、脳卒中 (脳血管障害)、てんかん、アルツハイマー病、パーキンソン病などのコモンな神経変性疾患に加えて、多発性硬化症などの神経免疫疾患、筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患を含む神経難病や筋ジストロフィー症をはじめとする筋疾患など、多岐にわたる疾患を担当しているため、プログラム・抄録集も 700 ページに及ぶ分厚いものでした。「治らない病気」を扱うといわれていた脳神経内科は、核酸医薬、再生医療、遺伝子治療、そしてそれらの効果を高め

大会長の戸田達史先生



副大会長の横田隆徳先生

るためのリハビリテーション治療、特にニューロリハビリテーション領域の発展によって、治せなかった病気を次々と治せる病気になっていることを実感しました。